

反転授業に関するワークショップ
ー主体的学習の促進と自己学習時間の確保ー

イントロダクション

**JABEE認定基準における
主体的学習促進と
自己学習時間確保の意義**

東京電機大学 学長室

工藤一彦

教育再生実行会議第3次提言

平成25年1月15日

「これからの大学教育等の在り方について」

21世紀の日本にふさわしい教育体制を構築し、教育の再生を実行に移していくため、内閣の最重要課題の一つとして教育改革を推進する必要がある。このため、「教育再生実行会議」を開催する。

学生を鍛え上げ社会に送り出す教育機能を強化する

大学は、課題発見・探求能力、実行力といった「社会人基礎力」や「基礎的・汎用的能力」などの社会人として必要な能力を有する人材を育成するため、

- 学生の能動的な活動を取り入れた授業や学習法（**アクティブラーニング**）、双方向授業など教育方法の質的転換を図る。
 - 授業の事前準備や事後展開を含めた**学修時間の確保・増加**、
 - 学修成果の可視化
 - 教育課程の体系化
 - 組織的教育の確立
- など全学的教学マネジメントの改善を図るとともに、
- 厳格な成績評価を行う。

「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」

中央教育審議会大学分科会 大学教育部会 答申 平成24年3月26日

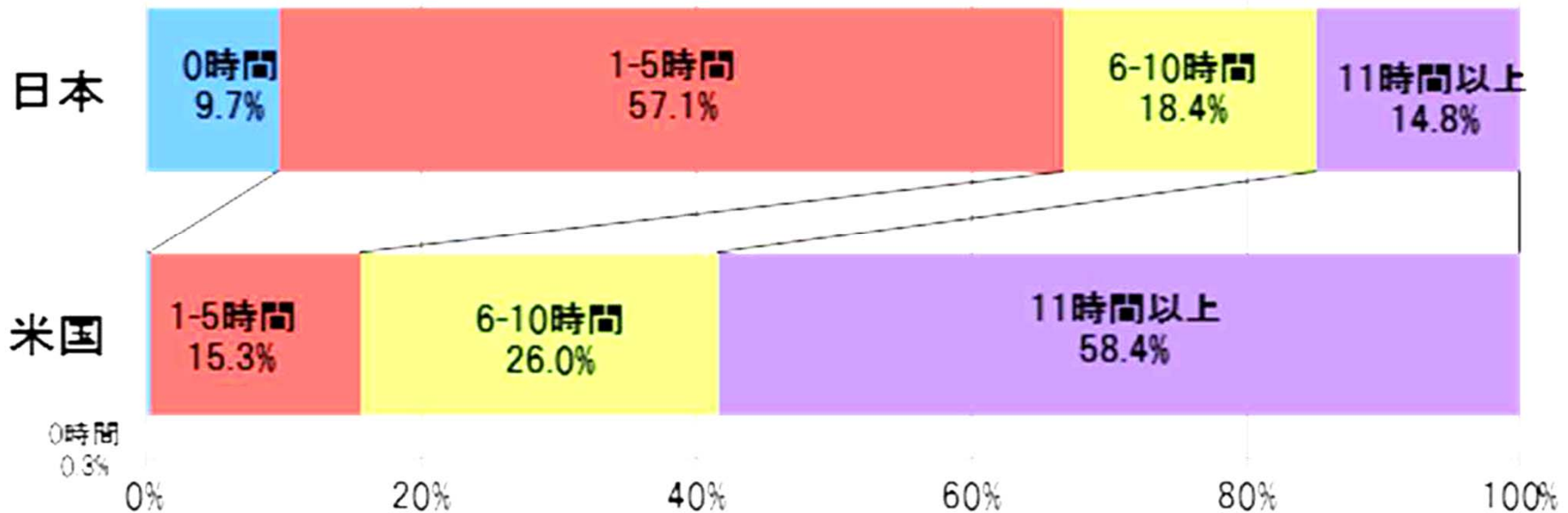
大学教育の目標：「答えのない問題」に最善解を導くために必要な専門的知識及び汎用的能力を育成すること。

学士課程教育の質的転換と学修時間の増加

- 課題解決型の能動的学修（**アクティブ・ラーニング**）
- 主体的な学びに要する**総学修時間の確保**
 - 1単位は45時間の学修を要する内容(標準的な学生が習得するのに45時間かかる内容)で
 - 学期中の一日当たりの総学修時間は8時間程度
- 教育課程の体系化
- 授業計画(シラバス)の充実
- 学修成果の把握: アセスメントテスト、学修行動調査
- 3つの方針に基づいた学士課程教育の改革

日本の学生の学修時間は米国に比べて少ない

◆授業に関連する学修の時間(1週間当たり)
日米の大学の一年生の比較



(教育再生実行会議 第3次提言 より)

出典: 東京大学大学経営政策研究センター(CRUMP)
『全国大学生調査』2007年、サンプル数44,905人
<http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/>
NSSE (The National Survey of Student Engagement)

JABEE認定基準における 「主体的学習」と「自己学習時間」の関連基準

基準1 学習・教育到達目標の設定と公開

基準2 教育手段

2.1 教育課程の設計

- (1) 学習・教育到達目標を達成できるように、カリキュラムが設計・開示されていること。
- (2)カリキュラムの設計に基づいて、科目のシラバスが作成・開示されていること。

2.2 学習・教育の実施

- (1)シラバスに基づいて教育が行われていること。
- (2)学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていること。

...

基準3 学習・教育到達目標の達成

基準4 教育改善

基準2.2 (2): 学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていること。

基準の解説

この項目は、学生の十分な自己学習時間を確保するための取り組み、すなわち、単位制の趣旨に沿った教育活動が行われることを意図している。

授業科目の単位を修得するためには、授業時間の他に、学生が主体的に勉学する時間(自己学習時間)が必要であり、そのため、プログラムには、学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みを行うことが求められる。

具体的には、単位制の趣旨に沿って教育機関独自の多様な工夫に基づく取り組みが行われることを意図しており、例えば、**授業時間外の自己学習時間を促すための組織的な履修指導**、**宿題の制度化**、**予習・復習の必要時間のシラバス等への明記と組織的な指導**、**学生の自己学習の成果を加味した成績評価**、**履修科目の登録の上限設定**、**GPA制度の活用**、**夜間も利用可能な自習室の設置等**や、それらを組み合わせる取り組みなどが考えられる。

反転授業による 主体的学習促進と自己学習時間確保

反転授業の定義

説明型の講義など基本的な学習を宿題として授業前に行ない（**自己学習時間確保**）、個別指導やプロジェクト学習など知識の定着や応用力の育成に必要な学習（**主体的学習**）を授業中に行なう教育法

従来の授業の問題点

学習内容の説明に授業時間の大半を使うため、個別指導や協調学習など教員や学習者同士の相互作用的な活動に十分な時間を確保できなかった。

反転授業の目的

反転授業の目的はビデオを見せることではなく、**教室での個別指導や協調学習（主体的学習）のための時間を確保**することである。そのために、教員が学生に直接対面でやる必要のない活動を授業時間外の**自己学習**に移すことが要点である。